

# 誰一人取り残さない 情報発信のサイクルを目指して 第5回 教育現場でのUDフォントの活用

UD  
FONT  
by MORISAWA



GIGAスクール構想という言葉をご存じでしょうか。2019年に文部科学省から発表された構想で、小中学校の生徒児童一人一台のICT端末を配備し、多様な子どもたちに最適化された創造性を育む教育を実現するための取り組みのことを指します。ICT教育を推進する行方市の小中学校では、一人一台のタブレットが用意され、日々の学びも始まっています。今回は、このタブレット学習におけるUDフォントの活用についてお伝えします。

玉造中学校の総合学習「私たちの未来」郷土を調べ。未来を想像しよう！」では、生徒一人一人が行方市の魅力について、調査し発見した内容を最終的にプレゼン資料にまとめ発表します。このプレゼン資料では、UDフォントを活用するだけでなく「伝わる」プレゼン資料作りを目指します。

## ノウハウを学び、プレゼン作りへ

12月16日(木)に玉造中学校1年生を対象に、伝わるプレゼン資料を作るために外部講師を迎え、作り方の心得とノウハウを学びました。

そもそも「プレゼンとは誰のための情報でしょうか?」「プレゼンとは、いくつかの情報からできている?」など、講師からの問いかけに、声を上げ元気よく回答する場面もあり、冒頭から「知りたい」という意欲が生徒の皆さんから感じ取ることができました。

実践的なプレゼンデザインのパートでは、なぜ読みやすくなるのか、なぜ見やすいスライドになるのか考えながら、ノウハウを学んでいきました。最後に、タブレットで講師から配布されたサンプルのパワーポイントデータを開き、伝わるプレゼン資料を自分自身で作っていく「ワーク」を体験しました。

友達同士で、協力しながらフォントの種類を変える方法・大きさを変える方法・行間を広げる方法

などシェアし、作業を進めました。

最後に、講師が実際にデータを作る様子を見ると「見やすくなった!」と声が上がリ、80人が一体となった授業となりました。

3学期には、選抜メンバーが実際にプレゼンテーション発表をする様子を「なめテレ」で放送する予定です。「伝わる」プレゼン資料が今から楽しみです。



時には友達と意見交換しながら、時には一人黙々と資料を作成しました。

編集協力・株式会社モリサワ